

# 医療連携ニュース

 尾道総合病院  
JA ONOMICHI GENERAL HOSPITAL

〒722-8508

広島県尾道市平原一丁目 10-23

TEL：(0848) 22-8111 (代表)

FAX：(0848) 22-5102 (連携室)

## ごあいさつ

### 病院長 田妻 進



JA 尾道総合病院・病院長の田妻です。

改めまして新年度のご挨拶を申し上げます。本来ならば恒例の『連携のつどい』にて病院内のトピックや新任医師のご紹介など丁寧に執り行わせていただくべきところですが、2020年初頭よりわが国をはじめ世界中に拡大した新型コロナウイルス感染（“コロナ禍”）に伴い、Face-to-faceの集合型会合開催を断念し、“医療連携ニュース”としてご案内申し上げることにいたしました。ご関係のみなさまには何卒ご理解賜りまして引き続きご指導ならびにご支援をお願い申し上げます。

さて当院はご承知のように公的医療機関として当地域におきまして、**がん診療連携拠点病院・救命救急センター・周産期母子医療センター・災害拠点病院・小児救急医療拠点病院・地域支援病院・臨床研修指定病院**の施設認定を受けており、①がん医療、②救急医療、③小児・産科医療、④災害医療の分野を重点的に担うとともに、**医育機関**として次代を担う医療人を育成すべく医学生・研修医・専攻医の教育・指導も行っております。

この度の“コロナ禍”は、昨年4月の病院長就任後から重視しております、当院のSDGs（持続可能な開発目標）、“Innovation, Safety, and Amenity：次世代に受け継がれる「良質で安全な医療提供」”について、早くもその検証を迫られている心持ちです。世界中が進めてきたグローバル化が皮肉にもパンデミックへの導火線となり、多くの国が鎖国政策へと舵を切り、人々の交流さえも遮断する、“ニューノーマル”なる新生活様式が日常となりましたが、私ども公的医療機関は使命感をもってポスト・コロナ、ウィズ・コロナに向き合い、本ニュースをご覧の皆さまはもとよりどなたからも信頼される病院であり続けたいと存じますので今後ともご高配のほど宜しくお願い申し上げます。

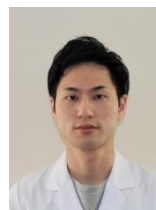
## 新任医師紹介



消化器内科

きたむら しょうすけ


北村 正輔




消化器内科

やまもと たくや

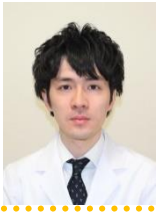
山本 卓哉




呼吸器内科  
かわさき こうへい  
**川崎 広平**



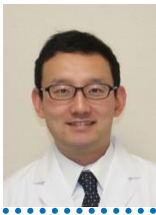
呼吸器内科  
きたじま たくま  
**北島 拓真**




呼吸器内科  
ほそや たかつね  
**細谷 堯永**



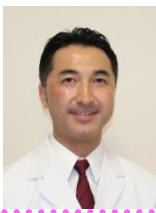
循環器内科  
さいらく あきのり  
**西樂 顕典**



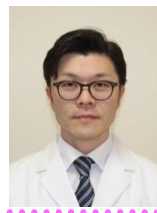
小児科  
たなか きよと  
**田中 清人**




小児科  
むらかみ ともき  
**村上 智樹**



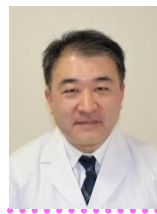
外科  
おおした あきひこ  
**大下 彰彦**



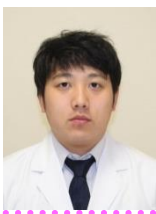
外科  
すみ ゆうすけ  
**寿美 裕介**



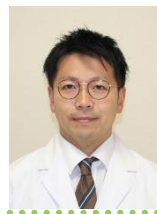
外科  
いたもと しんご  
**板本 進吾**




乳腺外科  
よしやま ともゆき  
**吉山 知幸**



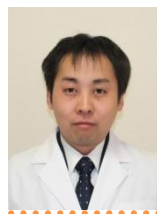
乳腺外科  
きたさき なお  
**北崎 直**



整形外科  
かわばた しんご  
**川端 紳悟**



脳神経外科  
やまだ なおと  
**山田 直人**



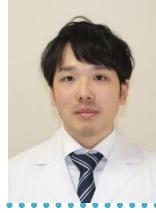
脳神経外科  
おちあい じゅんいちろう  
**落合 淳一郎**



産婦人科

かとう しゅんぺい

加藤 俊平



産婦人科

うやま たくと

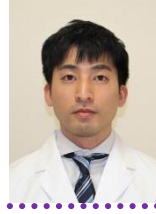
宇山 拓澄



産婦人科

ふじた まりこ

藤田 真理子



泌尿器科

のむら なおひみ

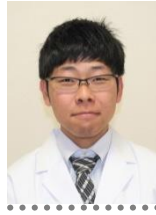
野村 直史



眼科

おおた ひろき

大田 啓貴



麻酔科

いけだ つよし

池田 豪



歯科口腔外科

みしま たけふみ

三島 健史



### ◆消化器内科◆

当院消化器内科の活動を御紹介します。

2020年4月に医師の交代があり、院長以下14名の陣容で活動しております。当科は消化器内科の各分野である、肝臓、消化管、膵・胆道領域にそれぞれ経験豊かな指導医を配置しており、日々の診療および研究に抜群のチームワークで奮闘しています。

また、診療部門として、内視鏡センター、IBD（炎症性腸疾患）センター、肝臓病センターを展開しており、最新かつ高度な医療を実践しています。特に内視鏡センターは看護科との協働で24時間の対応が可能で、2019年は合計11524件の内視鏡検査を行いました。特に緊急内視鏡検査の増加は著しく、当地区の消化器急性期医療に貢献しております。次に各分野での診療活動について御紹介します。

#### 『肝臓病センター』 センター長：片村嘉男

##### ・肝癌に対する経皮的ラジオ波焼灼術（RFA）、血管塞栓術

→広島県下でも数台しかないCT一体型の血管造影装置（IVR-CT）を導入しており、血管造影と同時にCTを撮影することで肝癌に集中した血管塞栓を行い、副作用を抑え高い治療効果を得ています。

##### ・慢性B型、C型肝炎に対する抗ウイルス療法

→B型肝炎にはインターフェロン(IFN)、核酸アナログ等で治療を行っています。また、C型肝炎ウイルスの症例に対して、インターフェロンを用いない内服抗ウイルス薬にて高率なコントロールを達成しています。まずは一度ご相談いただければ幸いです。

##### ・非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)

→NASHには肝硬変への進展や肝癌発癌のリスクがあります。また糖尿病の方の主な死因が、肝疾患（肝硬変、肝癌）であることが明らかになってきています。糖尿病・脂質異常症の方には、肝臓の経過観察が必須となります。

当センターには肝疾患に対する豊富な経験があります。なんでもお気軽にご連絡ください。

#### 『内視鏡センター・IBDセンター』 センター長：花田敬士、小野川靖二

##### ・消化管疾患の内視鏡診断と治療

→当院では最新の高解像度の内視鏡や特殊光観察（NBI）・超音波内視鏡などを用いて正確な診断ののち治療方針を決定しています。2014年秋からは大腸カプセル内視鏡も県下でいち早く導入致しました。癌の治療に関しては2002年より内視的粘膜切開剥離術（ESD）を導入し、消化管（食道・胃・大腸）の早期癌に対して治療を行っており、従来は手術が行われていた病変も大きく正確に一括切除することが可能になっています。2019年の内視鏡件数は上部7207件、下部2483件でした。

## ・炎症性腸疾患（IBD）

→当院では平成24年5月より、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病：Inflammatory Bowel Disease（IBD））を対象としたIBDセンターを開設いたしました。現在、約250名の患者を加療しています。

近年治療は大きく変化し、生物学的製剤や免疫調整薬、白血球除去療法などの強力な治療法により成績は大きく向上しています。IBDセンター設立によって内科・外科が連携し、総合的な対応を行っています。

また、患者およびご家族の皆様にはIBDの情報を提供し、疾患や治療内容について学んでいただく『IBD教室』を年2回（6月と11月）開催しております。

## ・膵胆道癌の早期診断・内視鏡的治療

→膵・胆道領域の診療は、質の高い全国標準の検査・治療を展開しています。年間の膵・胆道関連の内視鏡検査は、内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP）関連の検査・処置が699件、超音波内視鏡検査（EUS）関連が1097件であり、緊急処置も24時間対応しており、尾三圏域以外の地域からの御紹介が増加しています。

膵癌の早期診断に関しては2007年から尾道市医師会と協働で“膵癌早期診断プロジェクト”展開しており、5年生存率は約20%と改善が認められています。

また、閉塞性黄疸を伴う膵胆道癌に対する内視鏡的治療は高度な技量が要求されますが、ガイドラインを参考に十分な説明と同意のもとに検査・治療を展開しており、年間約620件の内視鏡的膵・胆道治療をおこなっています。

超音波内視鏡（EUS）は分解能が高く、膵・胆道系疾患の検査・治療において、腹部超音波や造影CTで描出できない微小膵癌の診断に極めて有用です。また、確定診断のためのEUSガイド下穿刺吸引細胞組織診（EUS-FNA）の件数が増加しています。合併症は極めて少なく病理研究検査科の全面的な御協力の下、高率な正診率を達成しています。

以上、消化器内科の御紹介でした。医師スタッフ一同、地域の皆様方の御期待に沿えるよう今後とも全力で頑張ります。何卒よろしく願い申し上げます。

## ■ 新任医師の挨拶



北村 正輔

2020年よりJA尾道総合病院へ勤務しております、消化器内科の北村正輔（きたむらしょうすけ）と申します。2001年3月に広島大学を卒業後、広島大学病院で初期研修を行い、済生会呉病院、広島大学病院、中国労災病院での消化器内科医としての勤務を経て、このたびJA尾道総合病院へ赴任いたしました。

出身は当院にほど近い福山市松永町で、高校卒業後25年ぶりに地元へ帰って参りました。専門は消化器内科でも特に消化管早期癌の内視鏡診断、内視鏡治療であり、これまでの経験を活かし尾三地区の消化器癌の早期発見早期治療に努めていきたいと思っております。皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。



山本 卓哉

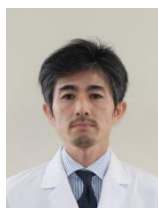
頑張りますので宜しくお願い致します。

当科では昨年までと同様に虚血性心疾患、不整脈および心不全を中心として循環器疾患全般の診療を行っております。

昨年の治療実績としては、経皮的冠動脈形成術・ステント留置術 201 件、頻脈性不整脈に対する経皮的心筋焼灼術（カテーテルアブレーション）82 件、徐脈性不整脈への永久ペースメーカー植込み術および電池交換 55 件、致命的頻脈性不整脈に対する植え込み型除細動器手術、重症心不全に対する心臓再同期療法 4 件でした。

急患に対しても可能な限り対応をさせていただきます。引き続き先生方のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### ■新任医師の挨拶



—昨年度に当院に勤務させて頂いておりましたので、2 回目の着任となります。  
心臓不整脈およびカテーテル・アブレーションを専門としております。特に心房細動への抗凝固療法についての研究歴は長い為、この分野で患者様のお力にならせて頂けると自負しております。出戻りではございますが、ご指導ご鞭撻をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

**西樂 顕典**

尾道総合病院呼吸器内科です。

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。この4月よりスタッフが一新され、フレッシュな体制でスタートしました。

私（鈴木）以外の3人が入れ替えとなり川崎広平先生（平成21年卒）、北島拓真先生（平成27年卒）、細谷堯永先生（平成29年卒）での4人体制となりました。3人ともかなり向上心のある先生で、自分のためだけではなく「誰かの役に立つために技術・知識をつけていきたい」を信念に人の為に自分は何が出来るかと常に考えて行動できる素晴らしい先生方です。また毎週木曜日には、昨年まで常勤されていた北島真紀子先生、因島医師会病院の塩谷先生にも加わって頂き気管支鏡検査やカンファレンスもより充実したものとなっています。

呼吸器内科の扱う疾患、病態は人の死に直結することが多く、向き合うのが“きつい”また“しんどい”という印象があると研修医や他科の先生方から言われることがあります。“きつい”または“しんどい”と感じるか、やりがいがある、奥が深いと捉えるかは心構え次第で見える景色がずいぶんかわると思います。確かにそこには最善をつくすための努力が必要であり、その人の「人生」を請け負う責任が伴います。しかし、だからこそ「やりがい」があると思っています。自分一人ではなくチームが一丸となって真正面に取り組むからこそ生まれる喜びと充実感があると日々感じています。その結果、患者さん・ご家族や同僚とも強い絆が生まれています。

今年はCOVID-19もあり、地域の基幹病院としての役割の重みをさらに強く感じながらスタッフ一同頑張っております。地域医療支援病院の使命のもと、“新生”尾道総合呼吸器内科が地域からの信頼とともに憩いの場になれるよう各関連科の医師、スタッフとの連携を密に保ちながら今後も最高の医療を尾三地区の患者様に提供できますように目指してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## ■ 新任医師の挨拶



川崎 広平

このたび呼吸器内科に赴任致しました川崎広平と申します。

私は初期研修を終了後、三原で7年間、御調で1年間の勤務を経て、この4月よりJA尾道総合病院での勤務開始となりました。

尾三地区には愛着があり、この地域の患者さんの健康を守るため、またこの地域の先生方のお力になれるように精進して参りますので、何卒宜しくお願い致します。



北島 拓真

4月よりJA尾道総合病院呼吸器内科に着任いたしました北島拓真と申します。

間質性肺炎・喘息・肺がん・COPDなど呼吸器疾患に対して幅広く対応させていただきますので宜しくお願い致します。



4月より赴任いたしました呼吸器内科の細谷堯永と申します。  
至らぬ点多々あるかと思いますが、尾三地区の医療に貢献できるように日々精進いたします。  
ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

**細谷 堯永**

---

腎臓内科では、腎臓にかかわる疾患について診療を行っております

1. 慢性糸球体腎炎やネフローゼ症候群など、腎臓由来の疾患の治療
2. 腎機能が低下した場合に、内服・食事・運動など多角的な介入で、腎機能障害の進行を予防し、定期的な精査で合併症の発見・治療をおこないます。
3. 透析・移植など腎代替療法の提供、入院中の血液透析、腹膜透析の導入・維持管理

最近では慢性腎臓病（CKD：chronic kidney disease）という概念が注目されています。今後、障害が進行して末期腎不全となり腎機能の代わりの治療（腎代替療法）が必要になる可能性がある患者さんを、集学的に治療を行い腎不全の進行を予防するように努めています。

ネフローゼ症候群や、血管炎症候群、膠原病のみならず、近年ではIgA腎症や常染色体優性多発性のう胞腎（ADPKD）で、難病指定を受けられるようになりました。治療費の補助なども受けられるようになり安心して治療が受けられるようになっていきます。これら各種難病も最新の知見に基づいて、積極的に治療を行っております。

現疾患の治療を行いながら、食事・内服・運動療法を通じて、血圧・脂質・血糖・尿酸などをコントロール目標に入るように治療をして、腎不全の悪化・進行を防いでいきます。希望者には、畜尿などで状態の評価と栄養指導を組み合わせ、より質の高い腎不全治療を提供できるようにしています。

末期腎不全に至った場合、適切な腎代替療法の提供を心掛け、移植の説明・登録や、血液透析の導入や入院中の治療を行っているほか、腹膜透析の導入を行っております。

検尿で異常を指摘された方、腎機能が少し悪いと言われた方は、今の状態と今後の見込みなど、評価ご説明いたします。過去や現在の病気の情報も大切ですので、今までの検診のデータ・紹介状などをご持参して受診をお願いいたします。

## ◆小児科◆

小児科は現在常勤医師 9 名が日々の診療に当たっています。

広島県より小児救急拠点病院の指定を受け、尾道市医師会小児科の先生方の協力のもと、夜間休日診療や 24 時間体制の救急車対応など小児救急医療を行っています。また当院には新生児集中治療室（NICU）が 6 床あり、地域周産期母子医療センターとして産科医とともに尾三地区の新生児医療の基幹病院としての役割を担っています。

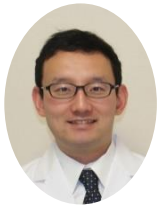
外来では急性疾患から慢性疾患のフォロー、学校健診・乳児健診で要精査となった場合の精査、食物アレルギーの負荷試験、発育発達に関する相談など、こどもの病気に幅広く対応しています。また臨床心理士による発達検査やカウンセリングを行っており、こどもの心の問題にも取り組んでいます。小児科領域における日々の診療でお困りのことがあれば何なりとご紹介ください。

### ■ 新任医師の挨拶



村上 智樹

7月に広島市民病院新生児科より異動してまいりました村上智樹と申します。尾道で小児科医として働くことができ、とても嬉しく思います。尾三地区の小児医療に貢献できるよう日々精一杯がんばります。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



田中 清人

4月より赴任しました、小児科専攻医の田中清人と申します。高校まで島根県浜田市で過ごし、広島大学を卒業しました。趣味はサッカーです。尾三地区の小児医療に微力ながら貢献できますように尽力致します。今後ともご指導ご鞭撻宜しくお願い致します。

### 第一の矢；地域のニーズに応える外科治療

我々は、痔核、胆石症、鼠径ヘルニアなどのごく身近なありふれた疾患や、急性虫垂炎、急性胆嚢炎、汎発性腹膜炎などの救急疾患に対し、最新、かつ適切な外科治療を提供します。特に、救急疾患に対しては可及的速やかに対応しています。他の病院では待機的手術を行うことも多い急性虫垂炎、急性胆嚢炎に対しても、原則として来院当日（夜間であっても、休日であっても）に緊急手術を行っています（先んずれば病を制す”です）。

### 第二の矢；最良の外科治療の提供

我々は、外科治療の王道は癌治療と考え、癌を確実にかつ適確に外科治療する事が癌治療の基本という信念を持っています。そのため地方都市に居ても常に、中央そして世界の動向を意識し、貪欲に世界レベルの外科治療を勉強、導入し、“地方であっても世界レベルの医療の提供”を目指しています。2013年からは日本肝胆膵外科学会の高度技能指導医の資格を有す肝臓外科専門医を含み2人体制（尾三因地域では尾道総合病院だけです）となり、高難易度と言われている肝、胆、膵領域の癌に対する外科治療も更に一層レベルアップしました。大腸肛門病専門医も3人在籍し（これも尾三因地域では尾道総合病院だけです）、下部進行直腸癌（肛門縁から4-5cm程度）に対しても安易に永久人工肛門を造設しない術式を選択しています。また最良の医療の提供のため他科の医師と密な連携しています。外科医の力だけでは、下手をすれば完全切除ができず姑息手術で終わってしまう可能性もある消化器癌に対しても他科の医師と協力し完全切除を行っています。

### 第三の矢；質の高い腹腔鏡手術の提供

我々は質の高い腹腔鏡手術にこだわっています。腹腔鏡手術はその低侵襲性（傷が小さく、痛みが少ない）から、患者さんにとって非常に優しい手術といえます。しかし癌に対する腹腔鏡手術は難易度が高いため、開腹手術と同等のクオリティがなかなか保てません。当科では腹腔鏡手術のクオリティの指標となる内視鏡外科技術認定医資格を有する外科医が2人在籍しているため（尾三因地域では唯一です）腹腔鏡手術のレベルは非常に高いといえます。対象疾患は胃癌、大腸癌のみならず最近では肝癌に対しても腹腔鏡手術を積極的に行っています。また当科では鼠径ヘルニア、急性虫垂炎に対しても腹腔鏡手術が第一選択です。これらの疾患に対しては開腹手術でアプローチする病院が多いのですが、当科はこれらの良性疾患に対しても（良性疾患だからこそと言えるかもしれませんが）腹腔鏡手術で行っています。最近ではより進歩した腹腔鏡手術、いわゆる単孔式腹腔鏡手術も導入しています。単孔式腹腔鏡手術とは、臍の凹みの中に小切開を置き行う腹腔鏡手術です。この手術では手術の傷が臍の凹みに隠れて、ほとんど見えなくなるため整容性、秘匿性に非常に優れた手術であり、女性、特に若い女性には福音となる手術です。

以上の“三本の矢”を根幹とし我々はこれからも、自分たちの一歩、一歩の積み重ねがこれからの外科・内視鏡外科の歴史を構築し、素晴らしく発展した未来へと繋がっていることを信じて日々の診療を頑張っています。

## ■ 新任医師の挨拶



**大下 彰彦**

これまで広島大学病院、フランスのストラスブール、アメリカのマイアミなどで、肝胆膵の良性・悪性疾患に対して生体・脳死肝移植を含む肝胆膵手術の研鑽を積んでまいりました。最近では腹腔鏡下肝胆膵手術に力を入れております。腹腔鏡下肝切除は部分切除から右葉・左葉切除まで幅広い術式を経験しております。腹腔鏡下膵切除は、膵癌に対する腹腔鏡下膵体尾部切除まで経験しております。多くの方に回復の早い腹腔鏡下肝胆膵手術を提供できるよう準備しております。



**寿美 裕介**

4月から外科に赴任いたしました寿美裕介と申します。  
尾道の医療に貢献できるよう頑張っておりますので、よろしくお願いいたします。



**板本 進吾**

4月から外科に赴任いたしました板本と申します。  
尾道の医療に貢献できるよう日々精進いたします。よろしくお願いいたします。

尾道総合病院心臓血管外科は、当院の心臓血管センターの中で心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設(関連施設)、日本脈管学会認定研修関連施設、大動脈瘤・末梢血管ステントグラフト実施施設、下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設として循環器内科とともに心臓・血管関連疾患の診療を行っています。主な対象疾患は、心臓疾患(冠動脈疾患・弁膜症など)、大動脈疾患(胸部・腹部大動脈瘤・急性大動脈解離など)、末梢血管疾患(閉塞性動脈硬化症・透析関連手術・下肢静脈瘤など)です。

当院の心臓血管センターでは、外来、病棟、症例検討カンファレンスを内科と外科が一緒に行い、患者様に最も効果的な方法を選択して実践しています。治療後は理学療法士、栄養士、薬剤師などによる心臓リハビリテーションを積極的に行って早期回復を、外来では慢性心不全認定看護師による心不全外来や生活指導を行って長期予後の改善を目指しています。治療経過において、医療スタッフと患者様・御家族の皆様が十分なコミュニケーションをとりながら力を合わせて病気を克服していけるような医療を目指しています。また、地域の開業医の先生方との病診連携を充実させ、入院・通院治療が円滑に進むように様々な取り組みを行っております。

当科では、新しい治療法を積極的に取り入れて治療を行っています。特に大動脈瘤のステントグラフト治療や下肢動脈閉塞疾患の血管拡張治療など低侵襲な血管内治療の導入で、御高齢の方や合併疾患のあるハイリスク症例に対しても治療を提供できるようになりました。また、下肢静脈瘤は以前からカテーテル焼灼治療を行っておりましたが、今回新たに保険で認可された静脈接着治療(VenaSeal クロージャシステム)を近日導入予定です。この方法は今まで焼灼のために行っていた下肢の広範囲の局所麻酔が不要になるため、術中の疼痛が軽減されます。

(注：血管内治療は血管の状況にあわせて適応症例の検討が必要です)

当科は、今年度からスタッフが1人減って2人になりました。日々の診療についてはやはりその分忙しくなりましたが、手術は今までと同様に実施し、さらに僧帽弁形成手術や胸部大動脈手術など高度な手術は大学などから応援に来てもらって、今まで以上に手術のレベルアップを目指しております。

これからも地域医療の場で心臓血管疾患の安全な治療を提供すべく、日々診療に従事して参りたいと思っておりますので、お困りの症例がございましたら気軽にご連絡して頂ければ幸いです。

今後ともご指導をよろしくお願い申し上げます。

心臓血管外科：佐藤克敏、児玉裕司

## ◆呼吸器外科◆

当科では、2名の呼吸器外科専門医を中心に、気胸・膿胸などの良性疾患から、肺癌・胸膜中皮腫などの悪性疾患まで手術を行っています。特に、増加傾向にある肺癌に対し、小型肺癌に対する縮小手術・胸腔鏡下手術から進行癌に対する集学的治療まで、患者本位の視線で呼吸器内科・放射線科・心臓血管外科などと連携し最も良いと考えられる治療法で対応しています。

当科は、尾三因医療圏の中核病院である JA 尾道総合病院の乳腺外科として、乳癌を中心とした悪性疾患および良性疾患を含めた乳腺領域の疾患を幅広く診療しています。尾三因医療圏唯一の日本乳癌学会認定施設であり、乳腺専門医が常勤し、日々の乳腺診療を行っています。外来は毎日行っており、火曜日午前と金曜日午後に初診（吉山）を行っています。また、水曜日午前（広島大学病院医師）、木曜日午前（春田医師）でも初診を行っています。

当科のスタッフはマンモグラフィ読影認定を受けており、質の高いマンモグラフィの診断ができます。乳房超音波検査でも、乳房超音波試験認定を受けております。

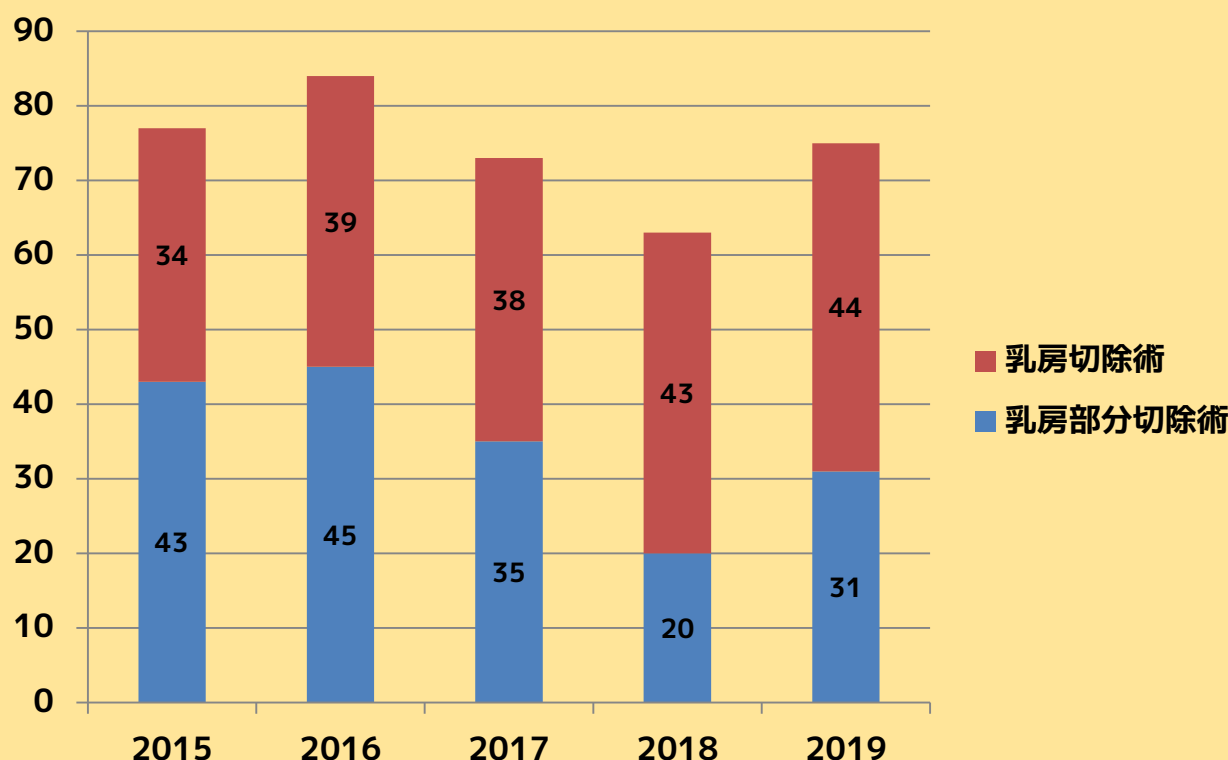
尚、診療・説明時には、乳がん認定看護師が同席し、よりきめ細かな説明、ケア、フォローをしています。

●手術療法

乳房については乳房部分切除術、乳房切除術（全摘）を行っており、乳房部分切除術の場合、さらに整容性を高める工夫として「内視鏡補助下手術」も行っています。乳がん手術で内視鏡を使うことにより、傷が目立ちにくい乳輪周りや腋窩の小さな傷で、病変を確実に切除することを可能としています。腋窩リンパ節の手術としては、センチネルリンパ節生検という方法を用いることにより、不必要な腋窩リンパ節郭清を減らし、リンパ浮腫や手術後の痛みを軽くするように努めています。

また、乳房の再建が必要な場合も、形成外科と連携して乳房再建術を行っています。（保険適応）当科は、日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会から、エキスパンダーおよびインプラントの実施施設として認定されています。

2015-2019 の乳房切除術と乳房部分切除術の手術数



## ●薬物療法

当院では、乳癌領域のすべての薬物療法に対応するべく、新規薬剤も可及的速やかに導入しています。薬物療法の実践においては、乳腺専門医、がん専門看護師、薬剤師など、多職種によるチーム医療を行い、チーム全体で患者さんを支えています。また新規薬剤に関する治験や全国規模の臨床試験にも参加していますので、最新の治療法を提供できます。

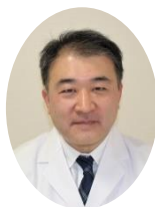
## ●放射線療法

放射線科と連携して、乳房部分切除術後、乳房切除術後の放射線療法や、乳癌転移症例に対する緩和的放射線療法等を行っています。

## ●遺伝性乳癌卵巣がん症候群への対応

遺伝子診療部と連携して、遺伝子検査、遺伝カウンセリング等を行っています。

## ■新任医師の挨拶



吉山 知幸

この4月1日からJA尾道総合病院に着任しました 吉山 知幸です。生まれは広島県呉市ですが、その後、熊本県で幼少期を過ごした後、小学生からは広島市で暮らしています。現在の自宅は広島市にありますが、自分自身は単身赴任で尾道の病院近くに住んでおり、たまに広島の実家へ帰る生活を送っています。健康維持のためにジョギングを日課にしています。

平成13年に広島大学医学部を卒業し、広島大学腫瘍外科に入局しました。九州がんセンター乳腺科および広島大学病院、呉医療センター等で乳がん診療の経験を積み重ね、このたび当院の乳腺外科主任部長代理に就任しました。これまでの診療経験の中で最も大切にしていることは、患者さんに喜んでもらうことです。そのために、患者さんの思いをよくきき、患者さんへの説明をわかりやすく丁寧に行い、患者さんの納得のいく治療を実践するように心がけています。

しっかりと職務を行ってまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



北崎 直

4月より赴任いたしました北崎直と申します。広島県出身、広島大学出身です。尾道の医療に少しでも貢献できるよう日々精進いたしますのでよろしくお願いいたします。

整形外科のスタッフは現在、数面先生、田中先生、清水先生、松浦先生、川端先生、そして私の6人体制で診療をおこなっています。

2019年度の手術件数は927例で、膝関節鏡手術、脊椎手術、骨折手術が中心となっています。尾三地区の先生方には日ごろよりお世話になっていますが、これからも宜しくお願いします。

川端先生は令和2年4月から当院に勤務しており、挨拶文を掲載させていただきます。

整形外科主任部長 盛谷 和生

### ■新任医師の挨拶



川端 紳悟

皆様はじめまして。令和2年4月より赴任しました川端紳悟と申します。

少し自己紹介をさせていただきます。地元は廿日市市地御前、修道中・高出身であり、香川大学を卒業し広島に戻ってきました。初期研修を広島大学病院で行い、広島市民病院、済生会呉病院で働き、ここ尾道に転勤となっております。

趣味はサッカーと音楽鑑賞です。サッカーは幼少から続けており、尾道でも機会があれば蹴りたいと日々悶々としております。サッカー・フットサルなどの機会がありましたらお声掛け下さると嬉しいです。なお個人的な今後の目標はサンフレッチェ広島のチームドクターになり地元プロサッカーチームを支えたいです。

また音楽鑑賞は主に邦楽ロックを中心に日々漁っております。ハイスタ世代であり、一生STAY GOLDしていく所存ではありますが、ここ数年はMAN WITH A MISSIONにはハマっております。音楽好き・狼好きの方がいましたら、お声がけいただきましたらとても嬉しいです。

話は少し変わりますが、いくつか病院を回ってきた中で感じていますが、当院整形外科のメンバーは間違いなく最高です。経験豊富であり、確かな知識・技術を持つ皆様と仕事をご一緒することができ、日々刺激をいただき、本当に恵まれた環境に身を置くことができ感謝しております。

不慣れな部分もあり、何かとご迷惑をおかけすることも多々あるとは思いますが、精一杯頑張りますので、今後ともよろしく願いいたします。

## ◆脳神経外科◆

医療圏の特性上、脳卒中・頭部外傷などの救急医療を中心に診療をおこなうとともに、未破裂脳動脈瘤に対する開頭手術・血管内手術、血行再建術などの脳卒中予防のための治療に力を入れています。

また地域の中核病院として脳神経外科手術全般に対応していますので、脳腫瘍手術や頭蓋底手術、三叉神経痛・顔面けいれんなどに関する治療を積極的におこなっております。また、小児科と連携し、小児神経外科にも対応しております。特殊外来として、第一金曜日午後には広島大学脳神経外科のてんかん外科専門医によるてんかん外来もおこなっております。

令和2年4月より日本脳神経外科専門医3名に増員となり、365日24時間体制で脳神経外科診療をおこなっています。

脳外科医師・病棟看護師・リハビリスタッフ・放射線技師・臨床工学技士・MSW（医療ソーシャルワーカー）など多職種と連携したチーム医療にて、日々努力邁進しております。

### 主な症状・対象疾患

脳卒中（くも膜下出血・脳梗塞・脳出血）全般

（脳動脈瘤に関しては開頭クリッピング術・血管内手術ともに対応。）

脳梗塞に関してはtPA静注療法、急性期血行再建術（カテーテル治療）にも対応）

未破裂脳動脈瘤（脳動脈瘤クリッピング術・コイル塞栓術）

内頸動脈狭窄症（血栓内膜剥離術・ステント留置術）

頭蓋内主幹動脈閉塞・モヤモヤ病（バイパス術）

脳動静脈奇形・硬膜動静脈瘻（脳血管内手術・開頭手術）

脳腫瘍（良性・悪性脳腫瘍に対する開頭腫瘍摘出術、頭蓋底手術など）

頭部外傷（慢性硬膜下血腫・急性硬膜下血腫・硬膜外血腫）

顔面けいれん、三叉神経痛に対する神経血管減圧術

### 専門分野

血行再建術（バイパス術・内頸動脈血栓内膜剥離術）をはじめ、頭蓋底手術、三叉神経痛や顔面けいれんに対する微小血管減圧術もおこなっております。

また、脳血管内手術も積極的に行っております。

術中モニタリング（SEP MEP VEP ABR AMR）、蛍光血管撮影、超音波血流計などを備え、安全かつ低侵襲な手術を心がけております。

### 診療実績

年間手術件数 220 件

（うち、脳血管内手術 75 件）



当院では、日本脳卒中学会一次脳卒中センターの認定を受けています。



「一次脳卒中センター」とは、地域の医療機関や救急隊からの要請に対して、24時間365日脳卒中や脳卒中を疑う患者を受け入れ、急性期脳卒中診療医師が、患者搬送後可及的に速やかに診察（t-PA 静注療法や血栓回収療法）を開始できる施設です。

脳卒中が疑われる場合は、脳神経外科へご相談ください。

### 新任医師の挨拶



山田 直人

今春より、市立三次中央病院から JA 尾道総合病院に参りました、山田直人と申します。尾三地区に住むのは初めてですが、院内および関連病院の職員の方々との連携が整っており、非常に恵まれた環境で勤務させて頂いている事を実感しております。脳神経外科医としては、これまで脳卒中を中心に日々の診療にあたって参りました。脳卒中急性期治療の意義は以前にも増して大きくなっており、当院近郊においても、地域の中核病院として脳卒中治療のニーズが高まっている様に感じます。尾三地区の医療に少しでも貢献出来る様、日々精進して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



落合 淳一郎

この度、中学校まですごしていた地元で働くこととなりました。故郷に貢献できるようになったことを嬉しく思っています。今後は地域のニーズに応えられるよう自分の診療の幅を広げていきたいと思っております。また、予防・発症時・回復期・維持期まで円滑で効果的な診療ができるように、関連する様々なスタッフとの連携を図っていきたくと考えております。脳の病気と聞くと、多くの患者さんやスタッフでさえ難しいと感じてしまっていますが、端的なわかりやすい説明を行えるように力を入れています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

## ◆皮膚科◆

皮膚科は令和2年度は医師の異動がありませんでした。松阪、伊藤、串畑の3人で引き続き診療しております。

外来診療は毎日午前中にしており、午後は週2回月曜日と金曜日に手術室での手術を行っています。皮膚科常勤医が3人勤務しており、時には形成外科にご協力いただけるため、当院は広島大学の関連病院の中では麻酔科管理の手術件数が多い病院です。火～木曜日の午後には小手術や皮膚生検、パッチテスト、術前エコーなどの検査を行っています。

また、乾癬やアトピー性皮膚炎に対する新しい治療として、生物学的製剤での治療も積極的に行っております。ステロイド外用や内服をしてもコントロールが難しい症例は一度ご紹介いただきますと、費用や自己注射指導などを医師のみではなく薬剤師、外来看護師と一緒にゆっくりわかりやすく説明するように心がけております。紹介いただく時期は実際に導入をするかどうか迷われている段階でもかまいませんので、ご紹介ください。

今後ともよろしく願いいたします。



泌尿器科は、副腎、腎臓、尿管、膀胱、および男性生殖器（前立腺、陰茎、精巣など）を主に扱う診療科です。それらががん、前立腺肥大症などの良性腫瘍、尿路結石、尿路感染症、過活動膀胱や尿失禁、EDなど泌尿器科疾患は多岐にわたり、泌尿器内科・泌尿器外科の両方の診療力が必要です。

2020年3月に中野芳紀先生が広島大学病院に異動となり、4月からは森山浩之、角西雄一、野村直史の常勤医3名体制です。スマートでバランス感覚に優れ、副院長職も兼務する多忙な中でも論文を書き続けるバイタリティー溢れる森山浩之先生、2019年から主任部長となり積極的に泌尿器手術を遂行している角西雄一の2名は、ともに日本泌尿器科学会指導医・専門医であり、また日本内視鏡外科学会の泌尿器腹腔鏡技術認定医です。中野先生と交代で広島大学病院から赴任された野村先生は卒後5年目の新進気鋭の医師です。電子カルテシステムに慣れるまでは診療に時間がかかるのではないかと考えておりましたが、若く適応能力が高いため、問題なく業務を遂行しております。最近の泌尿器検査、治療の進歩は目覚ましいものがありますが、それらに適応し常に最新の医療技術を提供できるよう努力しています。

2019年の手術件数（ESWLを除く）は374件で、前年より若干減少いたしました。主な手術内容は経尿道的膀胱腫瘍切除術102件、腹腔鏡下前立腺全摘術26件、腹腔鏡下腎摘除術14例、腹腔鏡下腎部分切除術8例、腹腔鏡下尿管全摘術13例などです。先に述べたものも含め、2019年の腹腔鏡手術件数は77例であり、ここ4年間は年間80例前後で横ばいです。年間100例を目指していますが、手術枠やマンパワーの関係でなかなか達成は困難です。しかし2016年8月に導入した腹腔鏡下膀胱全摘術も2019年は8例に施行し、周術期合併症の軽減、入院期間の短縮を認めております。2013年から開始した腹腔鏡下前立腺全摘術もこれまで200例に施行しております。また少数ですが尿膜管摘除や腎盂形成術、尿管切石術、精索静脈瘤手術なども腹腔鏡下に行い、それぞれ術後経過は良好です。

手術のみならず、限局性前立腺癌に対するホルモン併用放射線療法、去勢抵抗性前立腺癌に対する新規ホルモン薬やドセタキセル・カバジタキセルによる化学療法、進行腎癌や尿路上皮癌に対する免疫チェックポイント阻害薬での治療も積極的に行っています。

医師、看護師、薬剤師、メディカルクラーク、栄養士、検査技師、放射線技師など院内の多くのスタッフとの良好な関係を築き、連携・協同してより良いチームをつくり、患者さんにより良い医療を提供したいと考えております。常に最新の医療を提供できますよう、これからも日々努力し、尾三地区の医療に貢献したいと考えておりますので今後とも宜しくお願い申し上げます。

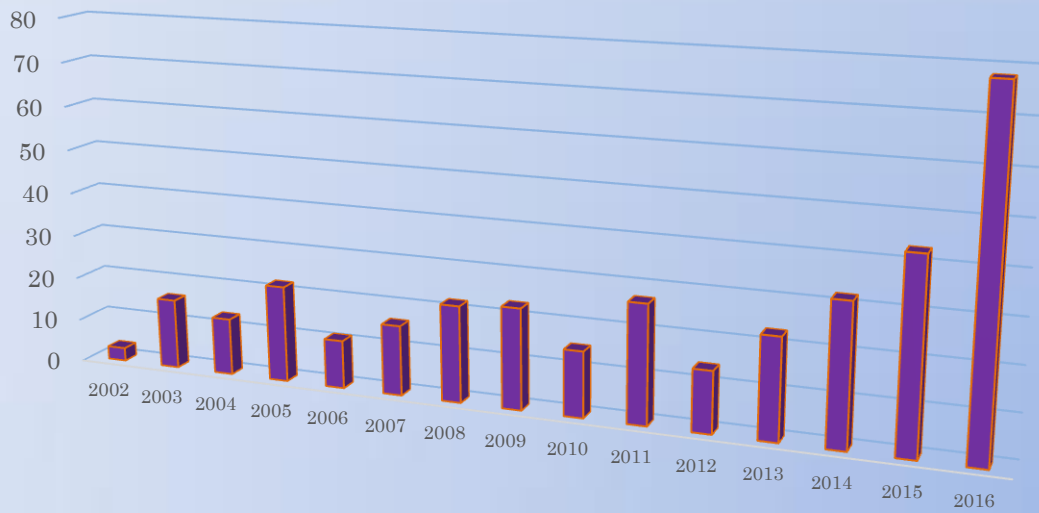
### ■新任医師の挨拶



野村 直史

この度泌尿器科に着任いたしました野村直史と申します。  
昨年は広島大学病院に勤務しておりました。尾三地区の医療に貢献するべく努力いたしますのでご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いします。

## 当科における腹腔鏡手術件数の年次推移



尾道総合病院耳鼻咽喉科は 2015 年 4 月より在任の主任部長 石井秀将を筆頭に 2018 年 4 月に多田誠、同年 6 月に三好綾子が着任し 3 人体制で運営しています。

定期手術日は火曜日と木曜日となっています。

また外来は平日の毎日開設していますが、手術日については火曜日は多田が、木曜日は三好が一人で対応しています。



このほか外傷や気管切開などの緊急手術については随時実施しています。

入院患者数は常時 10～15 名程度で 2019 年の入院患者数はのべ 430 名でした。予定手術の入院患者のほか、頭頸部悪性腫瘍に対する化学療法・放射線療法、扁桃周囲膿瘍や急性喉頭蓋炎などの急性感染症、急性のめまい・難聴・顔面神経麻痺、顔面や頸部外傷の患者など多岐にわたります。

2019 年の手術件数は 312 件でした。手術までの待機期間は、学校の長期休業期間を除けばおおむね 1 か月～1 か月半程度で手術が実施できます。扁桃摘出術・アデノイド切除術、内視鏡下鼻副鼻腔手術、顕微鏡下喉頭微細手術などが多くを占めますが、そのほかにも唾液腺腫瘍手術、頸部郭清術、口腔咽喉頭悪性腫瘍手術なども行っています。

聴器領域では、難治性滲出性中耳炎には鼓膜チューブ留置術を行います。慢性中耳炎・鼓膜穿孔に対しては接着法による鼓膜形成術を行っていますが、昨年末にトラフェルミン（遺伝子組み換え）を主成分とする鼓膜穿孔治療剤が新たに発売され適応症例に使用を開始しています。そのほか、良性発作性頭位めまい症、突発性難聴、顔面神経麻痺に対する検査、治療も行っています。

また乳幼児の聴力評価には聴性脳幹反応検査（ABR）を行っており、近隣の小児感覚器専門外来を有する医療機関との連携も図っています。

鼻副鼻腔領域では、重症アレルギー性鼻炎に対して CO2 凝固装置による下鼻甲介粘膜焼灼術を外来日帰り手術で行っています。また鼻腔形態異常による高度鼻閉に対して鼻中隔矯正術や粘膜下下鼻甲介骨切除術を行います。保存的治療で改善しない慢性副鼻腔炎や難病指定である好酸球性副鼻腔炎に対しては内視鏡下鼻副鼻腔手術を行っています。

口腔・咽喉頭領域では慢性扁桃炎や睡眠時無呼吸症候群で扁桃肥大を認める症例に対して口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術を行っています。頭頸部悪性腫瘍（口腔癌、咽頭癌、喉頭癌、唾液腺癌）に対しては NCCN ガイドラインに基づき手術・放射線治療・化学療法を組み合わせた集約的治療を行っています。放射線治療医との合同カンファレンスを定期的で開催し個々の症例の治療方針を検討しています。

嚥下障害患者に対しては、言語聴覚士とともに嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査を行っています。言語聴覚士は長らく非常勤 1 人の体制で負担も大きくなっていましたが、この 4 月より常勤 1 人、非常勤 1 人の 2 人体制となりました。嚥下リハビリも積極的に行っており、嚥下障害患者の早期離床・早期退院に貢献いただいています。

今後とも尾道総合病院耳鼻咽喉科をよろしく願っています。

広島県東部の眼科基幹病院の一つとして、他病院や診療所と連携しながら、難治例の治療に取り組んでいます。白内障、網膜硝子体、緑内障、眼瞼疾患、角膜、斜視・弱視、未熟児、ロービジョンなど、専門性のある分野に幅広く対応しています。平成29年4月および令和2年4月に医師を増員し、常勤医3名、非常勤医2名で担当しています。

レーザー治療などの専門治療や特殊検査は、午後に行います。加齢黄斑変性症や網膜静脈閉塞症、糖尿病網膜症などに対する抗VEGF療法（硝子体注射）には、午前中に即日対応できます。

手術は、白内障手術や眼瞼手術などの定期手術を月・水・木曜日の午後に行い、網膜剥離や急性緑内障などの緊急手術には、随時応需しています。平成28年9月には最新の網膜硝子体・白内障手術機器を導入し、より高率欲安全な手術が可能となりました。白内障手術においては、通常の単焦点眼内レンズ、焦点拡張型眼内レンズ、多焦点眼内レンズと、全てのタイプを取り揃えており、それぞれに最適なレンズを選択しています。

### ■新任医師の挨拶



順天堂大学出身の大田啓貴と申します。

尾道の医療に貢献できるよう、精一杯頑張りたいと思いますので、よろしく申し上げます。

**大田 啓貴**

## ◆産婦人科◆

2020年4月から5人体制で診療にあたっています。

年間の手術件数は300—400件で、そのうち悪性腫瘍の手術を80件前後実施しています。腹腔鏡手術にも力を入れており、昨年からは腹腔鏡下子宮全摘を開始し、以後着実に症例数も増えていきます。また、分娩数は500件前後で、地域周産期母子医療センターであることから、70件前後の母体搬送を受け入れていきます。

尾三地区の産婦人科は数年前から閉院、分娩取り扱い中止が続き、医療体制は悪化の一途を辿っています。今後も悪化が予測されていますが、当科のメンバーは活きが良くやる気に満ちています。

地域の産婦人科医療を支えると共に、若手医師の教育病院であることから豊富な症例数が必要です。症例の多くは地域の先生方からのご紹介であり、先生方に感謝しています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

### 【2019年産科症例統計】

分娩総数	470例
うち、帝王切開	158例
母体搬送	73例

### 【2019年手術統計】

<b>良性疾患手術 214例（うち、腹腔鏡症例 58例）</b>	
子宮全摘	158例（5例）
筋腫核出	73例（1例）
卵巣腫瘍手術	48例（43例）
子宮脱手術	22例（1例）
異所性妊娠手術	8例（8例）
TCR、その他	81例（0例）
<b>悪性腫瘍手術 78例（うち、腹腔鏡症例 4例）</b>	
広汎および準広汎子宮全摘	6例（0例）
単純子宮全摘（リンパ節廓清あり）	19例（0例）
単純子宮全摘（リンパ節廓清なし）	10例（2例）
円錐切除	36例（0例）
その他（試験開腹・腫瘍小術・腫瘍切除）	7例（2例）

### 【2019年悪性腫瘍症例（新規治療症例：手術、放射線療法、化学療法）】

	子宮頸癌	子宮体癌	卵巣癌	その他の癌
I期	2例	11例	10例	0例
II期	1例	3例	0例	0例
III期	1例	4例	6例	0例
IV期	0例	3例	3例	0例
合計	4例	21例	19例	0例

## ■ 新任医師の挨拶



**加藤 俊平**

尾道総合病院、産婦人科の加藤俊平と申します。  
2013年に日本医科大学を卒業し、呉医療センターで初期研修を行い、その後呉医療センター、安佐市民病院、広島大学病院、東広島医療センターの産婦人科での勤務を経て、2020年1月より尾道総合病院産婦人科に赴任して参りました。尾道は千光寺に来たことがあるくらいで、知らないところばかりなので、楽しんで生活をしています（もっとも、コロナウイルスの影響であまり散策出来ていませんが）。

まだまだ勉強中の身ですが、尾三地区の産婦人科医療に貢献できるように頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。



**宇山 拓登**

2020年4月よりJA尾道総合病院産婦人科に赴任いたしました、宇山拓澄と申します。  
出身大学は広島大学で、大学時代はラグビー部に所属していました。尾道に赴任してからはランニングで体力強化をしています。

産婦人科2年目の若輩者ですが、尾三地区の周産期、婦人科医療に少しでも貢献できるよう日々精進して参りますので、何卒よろしくお願いいたします。



**藤田 真理子**

尾道総合病院で初期研修を行い、引き続き産婦人科として働かせていただくことになりました。出身は福山市です。風光明媚で、観光地としても人気の高い尾道で働けることを嬉しく思っています。

未熟者ですが、備三地区の医療に貢献できるよう努力したいと思っていますので、よろしくお願い致します。

## ◆放射線科◆

放射線科は最新鋭の機器による診断や治療をおこなっています。

CTは2台で増え続ける検査をこなしています。そのうち1台は2017年3月に最新機器へ更新しました。GE社製の256列CTです。2000年代以降、CTはマルチスライスCTとして進化して列数の増加を重ねてきました。今回の256列CTでは列の多さもさることながら、検出器の幅が16cmとなったことが大きな特徴です。これにより心臓や脳全体を1回転で撮影することができ、まさに面検出器として新たな時代に入ったことを実感します。心臓の冠動脈CTでは画質の向上は明らかで、その他の領域での診断能向上も期待されます。CTは従来の64列CTとともに、最新のマルチスライスCT2台で1日60～70件の検査をこなしています。

MRIは1.5テスラと3テスラの2台で対応しています。MRIは一検査にかける時間を短縮することが難しく、最新機器であっても多数の検査をこなすことができません。予約待ちが長くなることが常態化しており、毎日稼働時間を延長して検査を捌いています。MRIも今や特別な検査ではなく、日常的なルーチン検査として必要不可欠となっています。

放射線治療は機器の更新が滞っており、現在の治療器を15年近く使用しています。年間250人前後の症例で、一日あたり30人程度の照射を施行しています。機器の性能や放射線治療医がひとりであることを考慮すると限度に近い数をこなしています。

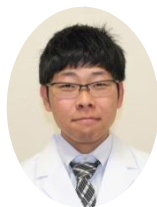
麻酔科は、手術麻酔が主な業務となりますが、それ以外ではペインクリニックの診療に携わっています。ペインクリニック外来は、平日の午前中に行っています。年間の延べ患者数は約 4300 名/年、新患者数は約 140 名/年で、比較的多い痛みの疾患として帯状疱疹・帯状疱疹後神経痛、腰下肢痛、頭頸部痛（三叉神経痛を含む）が、痛み以外の疾患として顔面神経麻痺や突発性難聴が挙げられます。

薬物療法はもちろん、外来では星状神経節ブロック、硬膜外ブロック、末梢の三叉神経ブロックなど各種ブロックを行っています。また、電気鍼治療や近赤外線・半導体レーザーを用いた光線療法も頻用している治療法となっています。

手術室では神経根ブロック、椎間関節ブロックや上下顎神経・半月神経節ブロックを、最近ではがん疼痛に対する腹腔神経叢ブロックを行っています。症例数は少ないですが、硬膜外刺激電極による脊髄刺激療法や手掌多汗症に対する胸腔鏡下交感神経焼灼術も行っています。

これからも地域医療に貢献できるよう微力ながら頑張っていきます。

### ■新任医師の挨拶



池田 豪

はじめまして。4月よりJA尾道総合病院に参りました麻酔科の池田豪と申します。

この度自己紹介をさせていただく機会をいただきましたので、私のことを少しでも知っていただければ幸いです。

生まれは広島市で修道高校（63回紺バッチです。）、広島大学を卒業しました。学生時代はずっと野球をしてきました。広島大学でも医学部準硬式野球部に所属していました。以前より尾道ではソフトボールの大会があると聞いておりとても楽しみにしていました。今年度の大会は中止となり非常に残念ですが、またいつか皆さんとソフトボールができる日がくるのを心待ちにしております。さて、大学卒業後は呉市の中国労災病院で2年間初期臨床研修を行い、麻酔の面白さにひかれて麻酔科に入局しました。去年1年間は大学病院で勤務する中で麻酔について色々と勉強し、今年度からJA尾道総合病院に勤務しております。現在は手術麻酔だけでなく大学ではあまり経験していないペインクリニックなどにも携わらせていただき日々新しいことばかりで大変勉強になります。

まだ卒後4年目で皆さまにもいろいろとご迷惑をおかけすると思います。これからもご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

## ◆歯科口腔外科◆

連携医の先生方、いつも紹介や逆紹介の受け入れありがとうございます。尾道総合病院 歯科口腔外科の伊藤です。COVID-19の影響により残念ながら本年の連携のつどいが中止となりましたので、紙面上の挨拶となつてしまい申し訳ございません。

また4月、5月は患者紹介の制限や外来診療制限に関しご協力いただきありがとうございました。重ねてお礼申し上げます。

さて、当科では昨年度は、地域の先生方から約1100件の紹介をいただきました。紹介は主に智歯抜歯等の外科治療が多くなっていますが、治療後は速やかに紹介元へお返ししする様にしています。最近では薬剤性顎骨壊死の予防を当院や尾道医師会・歯科医師会・薬剤師会の協力のもと取り組んでおり、BMA（骨修飾薬）を使用されている患者様の外科処置を依頼される機会が増えています。

また、当科からの逆紹介率の向上も目標としており、5年前までは40%程度だった逆紹介率も、昨年度では78%まで向上しました。

地域の連携医療としては先ほど挙げた薬剤関連顎骨壊死の予防を3会合同で取り組んでおり、また、6年前より開始した全身麻酔手術の際の周術期口腔ケアについても開始当初は懐疑的だった患者様も地域の歯科医院先生方の協力のもと歯科治療の受け入れも良好となって来ています。これらのことから地域全体として歯科受診率の向上に寄与できているのでは無いかと考えています。

以前同様外科手術も行っており昨年度実績では50例の全身麻酔手術、70人の入院患者様を担当させていただきました。

これからも尾三地区の医療に貢献できる様にスタッフ共々診療に取り組んでいきますので、よろしくお願いいたします。

### ■新任医師の挨拶



広島大学病院顎・口腔外科より6月に赴任してきました三島健史と申します。大学を卒業して7年目ですが、患者様に寄り添った治療を第一に考え、尾三地区の歯科医療に少しでもお役に立てるよう頑張りますので、宜しくお願い致します。

三島 健史